

皆様おはようございます。ここ数日雨が降り続き怖い思いをなさった方も多いいらっしゃるのではないかでしょうか。ご無事でいらっしゃいましたでしょうか。被害はありませんでしたでしょうか。安芸高田ですとか、九州ですとか、広島市ですとか、いろんなところで被害があったようです。今途方に暮れていらっしゃる方がたくさんおられます。神様の新しい力で立ち上がることができますように、絶望しきってしまうことがないように、神様のお助けをお祈りいたしましょう。引き続き今週も雨が降り続くようです。皆様どうぞご用心頂き、お気をつけください。今日はアナニアとサフィラという2人の人が出てくるお話ですけれども、これは非常に恐ろしいお話です。なんといいますかホラー小説のような恐ろしさがあります。サタンに心を奪われ聖霊を欺いて土地の代金をごまかし、それは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだという神様の鋭い言葉が人の言葉を通して語られ、その勢いに人は耐えられずに倒れて息が絶え、そして直ちにその遺体が埋葬されたという出来事が記してあります。それも夫に続いて妻も同じように、2人ともその出来事が続いたという、実に恐ろしい出来事が記してあります。

あまりに恐ろしい裁きが記してありますから、この箇所を語るのには躊躇を感じます。しかしこの箇所から私たちは学ばせていただきたいと願っております。1節 ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、

5:2 妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

「相談して」という言葉は、別の聖書訳では「共謀して」と言うふうに書いてあるものもありますけれども、ある金額で売れたその金額を少なく偽って、少し自分の懐に残しておいて、その残りのお金を、土地を売ったお金の全額だと偽って行ったというのです。なんでそんな嘘をついてしまったのでしょうか。ペテロは後の所でこういっています。

「売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。」

もともと自分のものだし、売らなければずっと自分のものだし、強制的に売ってさげよということでもないし、売ったお金も自由にできるのだから、全部を持ってきなさいというルールがあるわけでもない。ここで問題なのは、少しお金を少なくして、自分の元に残してから、教会に持ってくるときには、これで全部ですと嘘をついたことにあるというのです。

ではなぜそんな嘘をついてしまったのでしょうか。他の人は自分の打った全額を皆持ってくるから、自分も引け目を取らないために、そういうことにしておこう、いくらで売ったなんて言う金額のことは、だけにも分からないのだが

ら、これで全部と言っても分かるまいと、アナニアとサフィラは相談したわけです。

それにしても、そういう見栄を張るようなことをする人は世の中たくさんいるわけで、売っても売っていないと嘘をつく人もいるし、曲がりなりにも自分の土地を売って、それを使徒たちの足の前に、教会のために捧げる人が何でそんなに、死に値するほどに責められなければならないのでしょうか。

このペテロが言った言葉は、実は人間の憤りではないと書いてあります。

「あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

これは神様に向けての大きな罪であるということをペテロは語っています。

3 節「すると、ペトロは言った。『アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。』」

「サタンに心奪われて」。これはどういうことでしょうか。

原典ギリシャ語を見ますとこのように書いてあります。

「なぜサタンはあなたの心を満たしたのか。」

3 節全体ですと、こうなります。「あなたが聖霊に嘘をつき、聖霊に対して真実でないことを語り、土地の代金をごまかすために、なぜサタンはあなたの心を満たしたのか。」

「なぜサタン(悪魔・悪霊)はあなたの心を満たしたのか」、これはサタンに対して語られた言葉ではありません。サタンが押し入ってきて、心の扉を勝手にこじ開けて、殴り込んできて、人の心を満たし、悪に満たして、人を操縦して、人はどうにもこうにも拒否できなくて、強い力によって押し任されて聖霊を欺き、土地の代金をごまかしてしまった、人は被害者である、ということではないのです。

「なぜサタンはあなたの心を満たしたのか。」これは、なぜあなたはサタンをここまで、心のすべてに住みかを与えるほどに扉を開き、受け入れ、招待し、あなたの心を満たすがままにしておいたのか、という意味です。聖霊にうそについて、神に嘘を語って、それが分からぬがままであるはずがない。それなのに、大丈夫だと神を軽んずるということは、まさしくサタンを心の中に受け入れ、心を満たされ、心を奪われている状態であるからに他ならないとペテロは語ります。

マタイ 6:22 から、聖書はこう語ります。

口語訳 6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

新共同訳 6:22 「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、

6:23 濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」

6:24 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

私たちの目が大切なのです。私たちはきちんと目で見て、判断して、どの主人に仕えるべきかを

ヨハネ 8:42 口語訳 イエスは彼らに言われた、「神があなたがたの父であるならば、あなたがたはわたしを愛するはずである。わたしは神から出た者、また神からきている者であるからだ。わたしは自分からきたのではなく、神からつかわされたのである。

8:43 どうしてあなたがたは、わたしの話すことがわからないのか。あなたがたが、わたしの言葉を悟ることができないからである。

8:44 あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。

8:45 しかし、わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしている。

8:46 あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜあなたがたは、わたしを信じないのである。

8:47 神からきた者は神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神からきた者でないからである」。

ヨハネ 8:42 イエスは言われた。「神があなたたちの父であれば、あなたたちはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神のもとから来て、ここに

いるからだ。わたしは自分勝手に来たのではなく、神がわたしをお遣わしになったのである。

8:43 わたしの言っていることが、なぜ分からぬのか。それは、わたしの言葉を聞くことができないからだ。

8:44 あなたたちは、悪魔である父から出た者であって、その父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は最初から人殺しであって、真理をよりどころとしている。彼の内には真理がないからだ。悪魔が偽りを言うときは、その本性から言っている。自分が偽り者であり、その父だからである。

8:45 しかし、わたしが真理を語るから、あなたたちはわたしを信じない。

8:46 あなたたちのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるのであるか。わたしは真理を語っているのに、なぜわたしを信じないのであるか。

8:47 神に属する者は神の言葉を聞く。あなたたちが聞かないのは神に属していないからである。」

2コリント 11:10 口語訳 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言う、この誇がアカヤ地方で封じられるようなことは、決してない。

11:11 なぜであるか。わたしがあなたがたを愛していないからか。それは、神がご存じである。

11:12 しかし、わたしは、現在していることを今後もしていこう。それは、わたしたちと同じように誇りうる立ち場を得ようと機会をねらっている者どもから、その機会を断ち切ってしまうためである。

11:13 こういう人々はにせ使徒、人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである。

11:14 しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。

11:15 だから、たといサタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなろう。

2コリント 11:10 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言います。このようにわたしが誇るのを、アカイア地方で妨げられることは決してありません。

11:11 なぜだろうか。わたしがあなたがたを愛していないからだろうか。神がご存じです。

11:12 わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。

11:13 こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。

11:14 だが、驚くには当たりません。サタンでさえ光の天使を装うのです。

11:15 だから、サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装うことなど、大したことではありません。彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう。

このようにサタンは光の天使の姿を装い、義に仕える者を装い、偽装して、創世記のアダムとエバの墮落ではありませんが、「目に麗しく」近づいてきます。同じく創世記4章、カインがアベルを殺したときに主がカインに語られた言葉も、重要です。

4:7 口語訳 「正しい事をしているのでしたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのでしたら、罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを治めなければなりません」

4:7 新共同訳 もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」

サタンは私たちにすっと近づいてきます。何食わぬ顔で、心地よく、私たちに良いものを提供したいというように、とても感じよく、天使の姿を装い、義に仕える者を装い、偽装して近づいてきます。「罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、」私たちはそれを治めなければなりません。決してそれを心に満たしてはならないのです。

ここに一つ目の「なぜ?」がありました。「なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。」

サタンに心の門戸を開けば、私たちはサタンに心をささげるところとなり、サタンに仕える者となり、神様の聖霊を軽んじ、神様に不遜になって欺くようになってしまいます。私たちは、心の門をしっかりと閉ざして戸口で待ち伏せる敵を支配し、締め出し、祈り神様のお力にすがる日々を過ごしたいと思います。

5:4 売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

売らなければ売らないで、自分のものであったし、売ったとしても、正直に話しさえすれば、その代金をいくらささげるかということは、自分の思い通りであったのに、どうして神様を畏れることなく、嘘を言い放ったのか。そこに後ろめたい気持ちはなかったのか。「あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」ペテロは聖霊によってアナニアの欺瞞を見破ってそのように言いました。二つ目のなぜ?という言葉が、ここに、「どうしてこんなことをする気になったのか」という言葉で記されてあります。

この出来事は、教会が神様のものであるということをはっきりと言い表しています。そして教会とは、建物ではなく、イエス様を頭とした人の集まりです。そこにあるのは自由な、公平な、平等な人ととの集まりですが、それは、神様がご支配される場所であり、人が神様とお交わりを頂く場所であるのです。また私たちが主を信じて洗礼を受けるということは、神の子とされ、主のからだの一部分とされることであり、主のしもべとされることであり、主はご自分からだである教会を、しみもしわも、一切ないきよい者として下さったからです。

エペソ 5:25(口語訳) 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

エフェソ 5:25(新共同訳) 夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、

5:27 しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。

あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

5:5 この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。

5:6 若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

罪を行うと死をもたらすということを聖書は幾度もなく記しています。

ローマ(口語訳)

5:12 このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。

ローマ 5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

5:7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはあるであろう。

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

5:9 わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。

5:10 もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

5:11 そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。

8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御靈の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

6:19 わたしは人間的な言い方をするが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくならねばならない。

6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ローマ(新共同訳)

5:12 このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。

5:6 実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。

5:7 正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。

5:8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

5:9 それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。

5:11 それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

8:1 従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

8:2 キリスト・イエスによって命をもたらす靈の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

6:19 あなたがたの肉の弱さを考慮して、分かりやすく説明しているのです。かつて自分の五体を汚れと不法の奴隸として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隸として献げて、聖なる生活を送りなさい。

6:20 あなたがたは、罪の奴隸であったときは、義に対しては自由の身でした。

6:21 では、そのころ、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥ずかしいと思うものです。それらの行き着くところは、死にほかならない。

6:22 あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隸となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

これは私たちの心の中にも非常に教訓として迫ってくる話です神様の聖書の言葉に基づいて私たちは行動する聖書は私たちの行動の規範であるというふうに信じていながらももう一つ別の律法があつて私たちに戦いを挑みます。それに打ち負かされ、私たちが心を開いて罪を受け入れれば死が訪れます。そこに葛藤があり、しばしば私たちの敗北があるかもしれません。神様のみ思いに完全に服従しようと思いながら、それをなしえない時があります。しかし、わたくしたちのために主は、「不信心な者のために死んでくださった」（ローマ5:6）のです。5:10 敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。

8:2 キリスト・イエスによって命をもたらす靈の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

死にゆくばかりの定めであった罪びとが、神の一人子イエス・キリストの身代わりによって生きる者になった、この福音を大切に、イエス様の贖いを頂いて、私たちは神様からの救い主こそを心に満たして、恵みの内に正しさへと向かうことが出来るようになったのです。

5:5 この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。

人々はアナニアの死によって神様の裁きの峻厳さを知り、恐れおののきましたが、その罪びとである私たちに対して与えられた、神の子、贖い主イエス・キリストの恵みは、私たちにとって恐怖をもたらす恐れではなくて、神の恵みと愛を感じて、もったいないとの畏れ多い気持ちにするのです。

5:6 若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

5:7 それから三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入つて來た。

5:8 ペトロは彼女に話しかけた。「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」彼女は、「はい、その値段です」と言った。

5:9 ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の靈を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」

5:10 すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。

5:11 教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

9節には三つ目の「なぜ?」が「何したことか」と記してあります。

妻も夫と同じ行く末をたどってしまいました。

ローマ 3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもいない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもいない。」詩編 1 4 編の引用ですが、人はこういう存在です。

3:10 次のように書いてあるとおりです。「正しい者はいない。一人もいない。

3:11 悟る者もなく、／神を探し求める者もいない。

3:12 皆迷い、だれもかれも役に立たない者となった。善を行う者はいない。ただの一人もいない。

このように、全ての人が神様の前に言い開きが出来ない状態であったのに、神様がその一人子をささげて救ってくださったということに私たちは目を留め、感謝して進ませていただきたいと聖書から学ぶのです。

5:12 使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、

5:13 ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。

5:14 そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。

5:15 人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。

5:16 また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた靈に悩まされている人々を連れて集まって來たが、一人残らずいやしてもらった。

歴代誌下 16:9 主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。

歴代誌下 16:9 16:9 主は世界中至るところを見渡され、御自分と心を一つにする者を力づけようとしておられる。

主はこのようにして、主イエス・キリストの血潮で、いのちで贖って、しみもしわもないようにきよめたご自身の教会に御力を現して、ご自身の栄光を現してくださいます。

人々ははじめはそこで起こっていることを見て恐ろしくて、近づこうとしませんでしたが、だんだんとイエス・キリストにある恵みのゆえに赦され、新しい歩みをすることが出来るのだということを知って、多くの人たちが信仰に入りました。

そうする中、神様は、多くの奇跡的なしと不思議な業とを教会にあらわしてくださいました。

巷には、多くの病人や汚れた靈に悩まされている人々がありましたが、教会に連れて集まって來たところ、一人残らずいやしてもらいました。

汚れた靈によって苦しみ、苛め抜かれ、悩まされる。そして死に至る。「死」というギリシャ語には、死んでいるという意味のほかに、「いのちのない」、「使い物にならない、役に立たない」、「効果的でない」という意味があります。悪靈に心満たされ、人は心を奪われ、いのちなく、人は生けるしかばねのようになってしまいました。神様の驚くべき御業の中にキラキラと輝いて神様の御用に用いられ、その人に与えられた神様の賜物を十二分に發揮すべく人は作られましたが、神様から離れて、これがはっきりと働かないようになってしましました。そして悪靈に悩まされ、病を得、死に至るべきものとなってしまいました。しかし、主イエス・キリストにあるのは神の赦しと新しい生まれ変わりと、永遠の命です。私たちは喜びをもって、心を愛である主イエス様で満たして、赦され、力づけられ、光栄のうちに働きかけることが出来るのです。

ビリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御靈の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそ従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起さ

せ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

フィリピ 2:1 そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“靈”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、

2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。2:12 だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。

2:13 あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

2:14 何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。

2:15 そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、

2:16 命の言葉をしっかりと保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことでも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。